

## ① 農業の大切なわけ

いま地球上には食べ物が足りなくて飢えに苦しむ人々が多くいる中で、わが国は大量の食糧を輸入にたよりながら、なにひとつ不自由さを感じないで、豊かな生活をしています。

食糧は人間の生命を支える大切なもので、農業は国民生活の上で大きな役割を果たしています。

いま、日本の人口は約1億2000万人で、食糧の自給率はお金にして約80パーセント、穀物の量にして約30パーセントという先進諸国の最低の水準にあります。国土の14.4パーセントが耕地で、その面積は538万ヘクタールです。そして水田面積は295万ヘクタールあって耕地の約55パーセントになっています。この水田は約2000年の昔から作られて、次第に拓かれて来た尊い土地です。そこには祖先たちが苦心をして開拓し拓けて、毎年米を作り、国民の生命を守りつづけて来たのです。

外国から食糧や家畜の飼料などが入ってこなくなったら、これは大変困ったことになります。このようなことを考えると、食糧は出来るだけ自給できるようにしなければなりません。

## ② これからの農業

わが国では、米の生産量と消費量がつり合うように生産を調整しています。そのために今までの水田面積を減らす、つまり減反や水田利用の再編成をしています。これは水田に稲にかわる作物、例えば野菜・くだもの・花類などを作り、畜産と組み合わせる仕方でより利益をあげるように工夫がされています。

わたしたちの村でも「一品一億円」を合いことばで、年々生産額をのばしています。目標に達成するのも間近いことでしょう。

農業の仕事が人の力から機械の力へと移り、たしかに仕事は楽になっ